

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機 関 名	北海道大学		整理番号	Q01
プログラム名称	物質科学フロンティアを開拓する Ambitious リーダー育成プログラム			
プログラム責任者	新田 孝彦	プログラム コーディネーター	石森 浩一郎	

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、本プログラムの根幹となるフロンティア数理物質科学のカリキュラムにおいて、プログラム履修生の専門領域の違いを超えて必要性の理解度が大きく改善されつつある。また、研究面では数理連携による複数の異分野融合が行われ、共同論文も発表されている。そのため、本プログラムは俯瞰力と独創性の養成の観点から評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、異分野ラボビジットは俯瞰力向上に好影響を与えており、また、企業セミナーはキャリアパスを考える良い機会を与えている。さらに、プログラム履修生の約7割が企業への就職に興味を示しており、本プログラムの主旨が良く反映されている。英語力は、海外インターンシップ、海外サマーキャンプ、学生主体による国際シンポジウムの企画・実施など着実に教育効果が表れており評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、学内及び学外プログラム担当者、指導教員、数理連携担当教員、客員教授、特任教員、助教からなる指導体制が充足していると評価できる。

優秀な学生の獲得については、平成27年度は大幅な定員割れを起こしたが、プログラム履修生が自発的に本プログラムの価値を知らせる説明会を開催し、平成28年度の受験者数の大幅な増加につなげており評価できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、プログラム履修生の修了要件として、M2でのQE1とD2終了時にQE2を必修としている。また、QE2合格者には独立ラボ運営、企業共同研究、海外共同研究、先端共同研究が課せられており、その成果が期待される。

事業の定着・発展については、PDCAサイクルの構築としてプログラム担当者以外が自己点検評価書を作成し、また、大学、企業、外国人評価者による外部評価書も作成し公表している。さらに、支援期間終了後も最終年度採用学生の最短修了年限までの奨励金の支給を大学が保証しており、7つの既存組織により継続してカリキュラムを行うことも決定されており評価できる。